SPAC芸術総監督から中高生の皆さんへ

みなさんは、いま自分がどういう時代に生きていると感じていますか?

そう、地域社会が崩壊(ほうかい)し、価値観が流動化(りゅうどうか)し、自殺者は増え続け、そして若者は「ひとり遊び」ばかりしていて孤独(こどく)のなかに閉じこめられている、そういう「精神的危機」の時代に生きている…と感じる人が多いかもしれません。

でも演劇をやっている僕から見ると、すこし違って感じます。なぜなら、演劇は何百年間も、孤独にさいなまれる精神や、なにが正しいのかの基準をなくして迷子になっている精神をえがいてきたからです。

つまりどうやら、世界が人間にとって生き易かったことなど一度もなかったらしいのです。

でもそのなかでがむしゃらにあがく人間が、演劇には登場します。がむしゃらにあがく彼らは、しばしば悲しい結末を迎えるし、人間とかこの世というものについてのはっきりした解答を出してもくれません。ですが、それでも演劇を見るとなんだか励まされる気がします。

どうしてでしょう?

きっとそれは彼らが"「わからない」ことに耐える力"を、すこし観客に手渡してくれるからだと、僕は思っています。

"「わからない」ことに耐える力"。それは"孤独と向き合う力"でもあります。

人間はいまも昔も孤独です。だから少しでも人とつながれるように、一生懸命(いっしょうけんめい)ことばとからだを研(と)ぎすましてきました。

それが演劇です。

宮城聰(みやぎ・さとし)

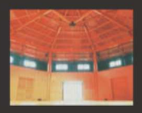
1959年東京生まれ。演出家。SPAC-静岡県舞台芸術センター芸術総監督。東京大学で小田島雄志・渡辺守章・日高八郎各師から演劇論を学び、90年ク・ナウカ旗揚げ。国際的な公演活動を展開し、同時代的テキスト解釈とアジア演劇の身体技法や様式性を融合させた演出は国内外から高い評価を得ている。07年4月SPAC芸術総監督に就任。自作の上演と並行して世界各地から現代社会を鋭く切り取った作品を次々と招聘、また、静岡の青少年に向けた新たな事業を展開し、「世界を見る窓」としての劇場づくりに力を注いでいる。14年7月アヴィニョン演劇祭から招聘されブルボン石切場にて『マハーバーラタ』を上演し絶賛された。その他の代表作に『王女メデイア』『ペール・ギュント』など。04年第3回朝日舞台芸術賞受賞。05年第2回アサヒビール芸術賞受賞。

SPAC-静岡県舞台芸術センターとは・・・

静岡県舞台芸術センター(Shizuoka Performing Arts Center : SPAC)は、専用の劇場や稽古場を拠点として、俳優、舞台技術・制作スタッフが活動を行う日本で初めての公立文化事業集団です。舞台芸術作品の創造と上演とともに、優れた舞台芸術の紹介や舞台芸術家の育成を事業目的として活動しています。1997年に初代芸術総監督鈴木忠志のもとで本格的な活動を開始。2007年より宮城聰が芸術総監督に就任し、事業をさらに発展させています。

舞台芸術を創造・上演する人がいます

SPACの活動全体の方針を決定する、「SPACの顔」である芸術総監督をはじめ、俳優、舞台技術スタッフ、制作スタッフ、文芸スタッフなど、舞台芸術を創造・上演するための専門家集団がいます。



舞台芸術作品を創造するための劇場・稽古場施設があります

日々、俳優の基礎訓練を行ない、独自の舞台芸術作品の創造のために試行を重ねる稽古場や、照明や音響などにおいて高度な機構を有した劇場——。質の高い作品創作を支える専用施設があります。

静岡から世界へ——舞台芸術作品があります

SPACの舞台作品は国内外で高い評価を受け、ギリシア、ロシア、フランス、イタリア、アメリカ、コロンビア、中国、韓国など世界11ヶ国から招聘され、公演を行ってきました。レパートリー作品は、SPACの財産です。

人々が集い、交流する場、それが劇場です

世界の優れた舞台芸術を上演する「ふじのくに⇄せかい演劇祭」や、未来の舞台芸術家を育成する人材育成事業などを行なっています。芸術家と観客が出会い、互いに創造力／想像力を刺激する場、それが劇場です。

来た! 観た! 考えた・・・。(鑑賞事業に参加した中高生のアンケートより)

はじめて生の演劇をみて……

- 初めてだったので、どのような様子か全く想像できませんでしたが、一度始まったら舞台に釘付けになりました。(2010年『令嬢ジュリー』、中2女子)
- 映画とは違う空間の雰囲気がとても新鮮でした。(2010年『わが町』、高3男子)
- 演劇ってマジメすぎて静かに見て、大人が見るものだと思っていたけどちがった。すごくおもしろくて、つい笑った。(2011年『ドン・ファン』、中2男子)

作品に考えさせられて……

- 考えなければ読みとれない(中略)このように考え抜く機会はよいものだと思いました。(2010年『令嬢ジュリー』、高1女子)
- 生と死、周りの人への感謝の気持ちについて、何度も考えたときはあったけど、改めて考えるとてもよい機会になりました。(2010年『わが町』、高1女子)
- 千年前と今では、その環境や生活が違ってきた部分もあるが、人の心は変わらないものだと感じた。(2010年『しんしゃく源氏物語』、高1男子)

SPACの俳優たちと交流して……

- 演技がとても上手で、一人一人の表現とかが凄かったです。(2010年『わが町』、高1女子)
- 帰るときに階段のところにみんないて、びっくりした。しかもみんな優しくて、写真もとらせていただきました!(2010年『しんしゃく源氏物語』、高1女子)
- 静岡にこんなすばらしいところがあるなんて、自慢でもあるしとてもうれしいです。(2011年『ドン・ファン』、中1女子)

オリジナルのパンフレットで理解を深める

SPACの鑑賞事業では、ご来場いただいた皆様にパンフレットを配布しています。あらすじや作品の背景知識、演出家の言葉などが掲載されており、観劇体験を深める手引きとしてご利用いただいています。

インタビュー　浜松市出身のSPAC女優・石井萠水

SPACが女優人生のきっかけに

「なんで静岡で演劇やってるの?」とか「はやく東京へ行けるといいね!」とよく人から言われます。

なぜ静岡で演劇をやっているかというと、それは静岡にはSPACがあるからです。

東京の舞台も魅力的ではありますが、SPACが目指しているのは世界クラスといわれるところで、私はせっかく一度きりの人生をかけるなら東京より世界の方がカッコいいなと思うのです。有難いことに毎年海外の舞台に立つ機会にも恵まれています。

浜松市で生まれ育ち、どうしても女優になりたくて、でもその方法も勝負する場も、勝ち残っていく手段も分からなかった私は、中学生のころSPACに出会いました。

毎年海外からやってくる数多くの作品やSPACが世界を目指して発信している作品は私にとって衝撃であり、それはまさに劇場という窓を介しての世界との出会いでした。

いつか自分たちが先頭にたち、静岡から世界へ新しいシーンをつくっていきたいと思っています。

石井萠水(いしい・もえみ)
静岡県浜松市出身。小学5年生より地元劇団に入団。2009年SPAC入団。
主な出演作『マハーバーラタ〜ナラ王の冒険〜』『ペール・ギュント』『黄金の馬車』など。

フランス・アヴィニョン演劇祭にて(撮影:新良太)

SPAC中高生鑑賞事業については、SPAC事務局までお問い合わせください。TEL.054-203-5735